歌と写真で綴る薩摩の脇道
－歌三昧の史跡巡礼，その4-1－

キラメキテラス ヘルスケアホスピタル　粟　博志・高田　昌実・萩原　隆二
鹿児島大学 名誉教授　納　光弘
加治木温泉病院　夏越　祥次
県立大島病院　粟　隆志

[第十章：春の訪れと鶴丸城周辺]

256 蕗(ふき)の薹(とう)　螺髪(らほつ)頭を持ち上げて　枯れ葉の庭に　春風ぞ吹く

図145　蕗のとうの収穫
今年も沢山の収穫があった。

図146　元興寺薬師如来立像，部分
尊い仏様の特徴的な頭部の螺髪
(新潮社，芸術新潮編集部著，「国宝」1993年発行，108頁より引用)

昭和20～30年代，日本では，ほとんどの野菜に旬があった。

然し，品種改良，栽培方法，流通手段，冷蔵・冷凍技術，更には輸入物などにより，その後，旬がなくなってきた。

そんな中，それらから取り残されたおかげ

図147　枯草の間から姿を現わす蕗のとう
店頭での蕗のとうは，みんな，この蕾の状態。注意しないと見逃す。

図148　螺髪頭の蕗のとう
蕾から，あっという間に螺髪頭になる。葉も香りよく，美味しく食べられる。

で，旬を頑なに守っているものがある。もちろん需要が無いからである。

それは，味と香りと，見た目の可愛いさで，春を届けてくれる蕗の薹である。

聞いた事は，あるだろうが，見た事も，食べた事も無い人も，多いに違いない。

257 蕗のとう　頭もちあげ　春告げる

258 枯草に　春をもてくる　蕗の薹

259 食卓に春を届ける　蕗のとう

260 ほろ苦い　春の香りや　蕗のとう

261 ほろ苦し　味も香りも蕗のとう　今年も春を　連れ来るかな

旬の時節に，草も枯れ，落葉の積もる地面に目を凝らすと，かわいい蕗のとうを見つける事ができる（図147，148）。

その旬の期間は短い。店頭のものは，全て蕾であるが，すぐに螺髪頭になり，まもなく花開く（螺髪頭は，私共の造語）。

私の最も好きな食物である。

螺髪の「螺」は巻貝の意。「螺髪」は尊い仏様の，くるくる巻いた毛髪で，必ず右巻きである。東大寺大仏は492個，鎌倉大仏は675個と数にきまりはない。

薬師如来（図146）は，大医王とも呼ばれ，衆生の疾病を治癒せしめる。光明普照，三千界をあまねく照らす。左手に薬壷を持つ。

262 薬師様　螺髪頭に願ひかけ　コロナ退散させ給へかし

263 風寒し　御池の畔　冬の朝　おたまじゃくしの春は来にけり

図149　御池を楽しそうに泳ぐおたまじゃくし
周囲は冬景色だが，池の中は水温む春。

2月27日，寒く風の強い日であった。お堀端では，砂ぼこりが舞い上っていた。然し，御池は城山と黎明館と森で守られ，別世界であった。

冬景色ではあるが，春は着実に来ている。池の中を覗き込むと，沢山のおたまじゃくしが，水面を楽しそうに泳ぎまわっている。池に五線紙を置き，動きを五線紙に落とせば，春の音楽が聴こえてきそうだ。

264 冬景色　水の中では春げしき

265 冬景色　おたまじゃくしの　春の池

266 水温む　おたまじゃくしの　賑やかさ

267 春来ぬと　水辺の景色　みえねども水面に春の　息吹き溢るる

それにしても，おたまじゃくしが成長した蛙は，去年の夏は，どこに消えたのだろう。

3月13日，未だ肌寒い風が吹いていた。スロープと階段を登り，東福寺城跡の桜の原に至った。何十本もの桜の木がある。

その中で，たった1本，然も，その一枝だけに白い桜花が，しっかりと咲いている。春

図150
多賀山の桜花園のこの一枚に，春の訪れを知る。

は確かに来ている（図150）。

268 風寒し　一枝(ひとえだ)の花なかりせば　山の上(え)いかで　春を知らまし

269 小鳥鳴き　古城の山に　桜咲く

270 古(いにしえ)の東福寺跡　山の上(うえ)　桜の一枝(いっし)　咲き初(そ)めにけり

271 城跡に　桜木数多(さくらぎあまた)ありけれど　一枝許(いとえだばか)り白き花咲く

272 山の上(うえ)　吹く風寒し花の園　桜の枝に春来たるかな

273 咲き初(そ)むる　桜の枝に春の風

[1] 市立美術館の石像，持明院様

274 西郷(せご)どんが　持明院様(じめさあ)　守る　森の中

市立美術館は，木造時代から何十回も訪れていたが，持明院様(じめさあ)には，全く気付かなかった（図151）。

美術館の前庭，大通りに面した左手の，小山になった森の中ほどに，西郷どんの大きい像が建っている。

図151　市立美術館前の小山の麓の持明院様石像と西郷どん
山の中腹，右上に西郷どんの頼もしい後姿が見える。

図152　持明院様石像はかなり大きい
白塗りのお顔がなければ，自然石と見分けがつかない。お供えの花が絶えない。このじめさあ像は，かなり大柄。

この山の反対側に，愛嬌のある古い石像が，ひっそりとある。建物側から目を凝らすと，じめさあの右上に，西郷どんの後姿を確認できる。じめさあを，お守りしているようだ。

持明院様(じめさあ)は，一見すると自然石のようで，どっしりしており，かなり大きい（図152）。その特徴は，まっ白に塗られたお顔である。太い眉毛と大きい目は，意志の強さを，窺わせる。

この石像の由来は多説ある。

持明院様は，島津家16代当主（藩主ではない）義久の三女で「亀寿様」と呼ばれていた。

1587（天正15）年，九州統一を目指し，秀吉は，20万人の大軍で九州入りした。その先兵隊と島津は，川内の平佐城で戦闘，好戦したが，圧倒的な兵力差で降服。川内で義久と秀吉が和睦した場所に，和睦石が建っている(泰平寺跡の泰平寺公園)。

この時，亀寿様は京に人質として送られた。後年，許され帰国。18代当主となった家久と結婚した。

275 じめさあの　白いお顔や　森の中

276 白塗りの　元祖本家か　じめさあは

277 白塗りの　下の素顔は　尊かり

・花の命は短くて苦しき事のみ多かりき

(芙美子)

278 香(か)に匂(にお)ふ　花の命は短かれど　今日(けふ)咲く花の美しきかな

持明院様は，心優しい人柄で，多くの人から慕われ，昔から城下の人に「じめさあ」と呼ばれて親しまれてきた。

この地は，二の丸の一角で，以前は市役所があり，1929（昭和4）年，当時の樺山市長が，この大石に気付き，苔を除くと女性の顔が現われたという。

当時は，風の神様とも思われていたようである。

ここに美術館ができた1954（昭和29）年から，命日の10月5日に，市役所の広報課職員により，お化粧直しが行われている。職員の方，おつかれ様，末永く，じめさあを綺麗にお願いします。

じめさあを，お参りすると美白美人になれるという。

[2] 美術館の前庭と県医師会館前庭の2つの百年記念碑

美術館前庭の，小山の麓の中ほどに「鹿児島市議会100周年記念碑」が建っている。(図153)。平成元年建立。旧市役所のこのあたりに，市議会場があったのだろう。

第一回市議会は，1889（明治22）年に開かれている。

ちなみに，鹿児島県医師会の「創立百年記念碑」は，県医師会館の正面入り口の左側にある（図154)。

創立は，前者とほぼ同時期の1890（明治23）年で，平成元年が創立百年である。

(次号に続く)

図153　「鹿児島市議会100周年記念碑」
市立美術館の前庭。第1回市議会は，明治22年に開かれた。

図154　鹿児島県医師会の「創立百年記念碑」
県医師会館入口左側。創立は明治23年。